

施設及び指定管理者の状況

1 施設

(1) 名称	和歌山県国際交流センター		
(2) 所在地	和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛8階		
(3) 電話番号	074-435-5240		
(4) ホームページ	http://www.wak-kokusai.jp/		
(5) 施設の目的	社会の国際化に即した地域の発展を促進するとともに、県民が国際交流及び国際協力に関する活動を行う拠点とする		
(6) 根拠条例	和歌山県国際交流センター設置及び管理条例		
(7) 所管課室	企画部 企画政策局 国際課		
(8) 施設が提供するサービス(施設・設備)	交流ラウンジ(国際交流に関心のある人の交流の場)、ボランティア・団体サロン(ボランティアや国際交流団体が自由に活動できるスペース)、資料閲覧室、相談カウンター(県民の国際交流と協力に関する相談、外国人の生活相談を受ける場)、サークル室(国際交流活動を行う団体が利用できる貸しスペース)、事務室		
(9) 利用料金制	未導入		
(10) 施設の料金			
	項目	金額	
		円	
		円	
		円	

2 指定管理者

(1) 名称	公益財団法人和歌山県国際交流協会					
(2) 所在地	和歌山市手平2-1-2 和歌山県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9階					
(3) 代表者	理事長 樫畑 直尚			(4) 電話番号	073-423-5717	
(5) 指定管理期間	始期	R4. 4. 1	終期	R7. 3. 31	期間	3年
(6) 選定方法	公募 (公募選定の際の応募者数) 1 者					
(7) 職員配置	常勤	2名	非常勤	8名	合計	10名
	有資格者 該当なし名 (資格名)					
(8) 指定管理料	令和	4年度	39,229,000 円			
	令和	3年度	39,968,704 円			
	令和	2年度	39,968,704 円			

業務及び利用の状況

1 利用状況(代表的なものを3つ)

(1) 施設の利用状況を示す指標	(2) 左の数値 ※()は前回モニタリング時の数値
ア 利用者数(人)	15,599 (12,920)
イ 外国人生活相談数(人)	935 (936)

2 仕様業務の実施状況

(1) 業務名称	(2) 左の実施状況
センター維持管理業務	来館者数：15,599人
国際交流等に関する活動を実施・支援する業務	和歌山信愛大学第3回和信祭への出展 参加者数：50組、147人 世界のぬりえコンテスト 応募数：26作品 世界の5大陸を知ろう事業 参加者数：12組、32人 ボランティア登録者数：120人 ボランティア研修会 参加者数：27人 通訳ボランティア技術向上講座 参加者数：9人 ブラジル移民展事業 参加者数：41人 グローバルセミナー 参加者数：157人 回数：6回 学校連携事業 参加者数：214人 回数：7回 英会話カフェ 受講者数：48人 回数：33回 やさしいドイツ語文化理解講座 受講者数：15人 回数：32回
国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務	図書蔵書数：7,959冊 図書貸出サービス登録者数：960人 図書貸出 利用件数：224件 総貸出冊数：592冊 ホームページによる情報発信 閲覧者数：22,462件 フェイスブック等SNSでの情報発信 フェイスブックページの「いいね！」数：954件 インスタグラムフォロワー数：135件
在住外国人等に対する支援業務	外国人相談窓口の運営 相談件数：935件 外国人のための専門家による一日相談会 相談件数：14件

	<p>外国人のための無料法律相談 相談件数：3件 回数：6回 相談員の資質向上研修等 回数：3回 日本語クラス 延べ受講者数：1,329人 回数：131回 自治体職員対象やさしい日本語研修会 受講者数：56人 日本語ボランティア研修会 参加者数：51人 回数：2回 令和4年度和歌山県内における日本語教室空白地域解消事業 (海南・紀美野・有田エリア) 新規開講教室数：5教室 平均学習者数：19人 (5教室の合計) コミュニケーション支援事業に関する講演等 参加者数：47人 回数：2回</p>
<p>在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務</p>	<p>外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSA」 参加者数：外国人25人、運営関係者34人 災害時避難所巡回訓練 参加者数：82人 災害時多言語支援センター設置運営訓練 (近畿ブロック連携訓練) 参加者数：36人 災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会 による会議、訓練、協議及び研修 回数：10回</p>
<p>海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務</p>	<p>ブラジル和歌山県人会と交流会の開催 参加人数：14人</p>

3 自主事業の実施状況

(1) 業務名称	(2) 左の実施状況
<p>国際交流及び国際理解に関する情報の収集と提供</p>	<p>和歌山県国際交流センターニュースの発行 発行部数：各1,500部 回数：3回 図書貸出サービス 対象図書数：7,959冊 貸出期間：3週間 利用件数：224件 総貸出冊数：592冊 書籍寄贈：168冊 YouTube配信及びICT推進事業 回数：16回</p>
<p>国際交流団体との連携及び育成</p>	<p>スピーチコンテスト等におけるWIXAS賞の授与 回数：2回 親子参加型国際交流事業「和の輪」の実施 参加者数：35組96人 回数：3回 「ふれあい人権フェスタ2022」に出展</p>

国際交流ボランティアの育成及びその活動支援

来訪者数：約120人

ボランティア研修会 参加者数：27人

通訳ボランティア技術向上講座 参加者数：9人

日本語ボランティア研修会 参加者数：51人 回数：2回

県内に在住又は滞在する外国人に対する支援

相談窓口の運営 相談件数：935件

外国人のための巡回無料法律相談 相談件数：3件 回数：6回

外国人のための専門家による一日相談会 相談件数：14件

和歌山県外国人サポートメール(5言語) 配信回数：36回

海外移住者や海外県人会に対する支援及び交流事業

ブラジル和歌山県人会と交流会の開催 参加者数：14人

和歌山県などからの国際交流事業の受託

日中交流奨学事業 参加者数：73人 回数：2回

指定管理者制度による和歌山県国際交流センター運営の受託

収支の状況

1 収入

(1) 費目	(2) 金額
基本財産運用益	¥5,396,010
受取会費	¥280,000
事業収益	¥1,112,020
受取補助金等	¥41,147,185
受取寄付金	¥1,054,277
雑収益	¥150,000
計	¥49,139,492

2 支出

(1) 費目	(2) 金額
①事業費	
給料手当	¥24,035,316
嘱託報酬	¥10,385,120
退職給付費用	¥613,120
福利厚生費	¥1,069,938
旅費交通費	¥219,394
通信運搬費	¥791,429
減価償却費	¥322,664
消耗品費	¥1,798,009
修繕費	¥67,100
印刷製本費	¥297,070
燃料費	¥8,571
光熱水費	¥380,021
賃借料	¥1,471,479
保険料	¥17,686
諸謝金	¥533,250
租税公課	¥1,841,700
共益費	¥5,260,390
支払負担金	¥22,000
委託費	¥1,342,200
雑費	¥1,925

②管理費	
役員報酬	¥310,000
給料手当	¥1,793,735
退職給付費用	¥153,280
福利厚生費	¥234,865
旅費交通費	¥82,214
通信運搬費	¥41,116
減価償却費	¥28,058
消耗品費	¥49,241
印刷製本費	¥40,911
光熱水費	¥57,663
賃借料	¥569,228
保険料	¥109,500
租税公課	¥2,160
支払負担金	¥252,000
共益費	¥863,480
支払手数料	¥182,302
委託費	¥789,800
雑費	¥80,662
計	¥56,118,597

3 収支（収入-支出）

¥-6,979,105

利用者アンケートの状況

1 アンケートの実施期間、方法及び有効回収数

(1) 実施期間	自	令和	4年	4月	1	日
	至	令和	5年	3月	31	日
(2) 実施方法	センターの様式に記入		(3) 有効回収数	252		

2 アンケート結果

評価する主な意見	左を受けての対応等
<ul style="list-style-type: none"> ・センタースタッフの対応が、親切、丁寧、スピーディである。 ・在住外国人との国際交流事業が良い。もっと機会が増えれば良いと思う。 ・海外移住者支援事業のオンライン講座にて、日系人の歴史や社会の現状、本県とのつながりを知ることができよかった。 ・ボランティア研修会を受講し、地域の魅力を伝えるための工夫を学んだ。 ・外国人防災講座にて、倒れた人の助け方やAEDの使い方等防災知識がよくわかった。また、やさしい日本語で教えてくれた点がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービス向上については、職員内でアンケート結果を共有し、引き続き利用者へのサービス向上の意識を統一させた。 ・さらなる県民の国際化に関する関心や、在住外国人のニーズなどがますます多様化する時代の変化に迅速に対応し、地域住民や外国人住民により親しまれる施設として活用していただくため努めていく。 ・新型コロナウイルスの感染症をきっかけに導入されたオンライン形式の講座やイベントへの参加も定着してきた。
評価しない主な意見	左を受けての対応等
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによりボランティア活動の場が少なく、もっと機会があれば嬉しい。 ・センターからの情報発信の頻度や方法を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の機会について、令和5年度5月の緩和以降はコロナ以前と同様にボランティア活動の機会提供を行っている。（国際的なスポーツ大会や当センター交流事業での通訳、ホームステイ、文化紹介等） ・情報発信について、令和4年度はHPをリニューアルすることで、県民のみなさんにとって情報がわかりやすい内容となり、加えて従来よりも担当職員が簡単に更新できるよう変更したことで定期的な事業の告知や報告を継続できている。 また、SNSでも既存のFacebookに加えInstagramを導入し、利用層の異なる両SNSを連動させ定期的に更新していること等により多くの県民に情報発信をすることで課題解決を目指している。

重要業績評価指標（KPI）の達成状況

1 重要業績評価指標（KPI）

指標	目標値	実績	達成状況
センター利用者数（人）	年間1,000人増加 令和6年度末には20,000 人を目指す	2,679人増加	○ (達成)
センター利用者満足度（%）	5段階評価で、普通以 上割合が80%以上	5段階評価で、普通以 上割合が98.6%	○ (達成)
その他 研修会、講座、交流会等の参加者満足度（%）	5段階評価で、普通以 上割合が80%以上	5段階評価で、普通以 上割合が98%	○ (達成)

2 目標達成に向けた取組

・利用者数増加に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、対面実施可能な講座やイベントについてはタイミングを見計らいながら実施した。
また、ハイブリッド形式やオンライン形式で講座等を積極的に実施し、イベント運営をする職員のスキルや参加者が定着してきたことが利用者数増加につながった。

3 目標未達成の場合の改善策等

--